

2023年12月期 決算説明資料

2024年3月13日

六甲バター株式会社

(証券コード:2266)

1. 会社概要

2. 2023年12月期の振り返り

3. 2024年12月期の計画

4. Appendix

会社名	六甲バター株式会社
英文表記	ROKKO BUTTER CO.,LTD.
本社所在地	神戸市中央区坂口通1丁目3-13
設立年月日	1948年12月13日
資本金	28億4,320万円
上場区分	東証プライム市場
従業員数	452名(2023年12月末現在)
代表者	代表取締役会長 三宅宏和 代表取締役社長兼CEO 塚本浩康

六甲バターの経営理念

健康で、明るく、楽しい食文化の
提供によって社会に貢献する



代表取締役会長 三宅宏和



代表取締役社長兼CEO 塚本浩康

ブランド力×企画開発力×事業基盤＝六甲バター

信頼と安心のQ・B・Bブランド



- **Q・B・B=Quality's Best&Beautiful**
⇒おいしい品質へのこだわり
- **国内トップブランドとして抜群の知名度**
⇒家庭用の他、学校給食や業務用でも幅広く商品展開
- **家庭用プロセスチーズ国内購買金額シェア13年連続No.1**
⇒ベビーチーズシェア約6割・年間生産2億本以上 (*)



おいしいって、生きること。

Q・B・B

(*)インテージSCI(15-69歳・沖縄含む) プロセスチーズ市場 2011年～2023年購買金額シェア

独創的な商品企画・開発力

- **多数の世界初・国内初の商品開発実績**
⇒スティックチーズ・個包装スライスチーズ等
- **常にニーズの先取りを追求する開発体制**
⇒「チーズデザート」・「包み」等オリジナリティ溢れる商品を市場投入
- **「開発先導型活力企業」を標榜**
⇒新たな価値の創造に挑戦

確固とした事業基盤

- **戦略的投資を可能とする強固な財務基盤**
⇒純資産額300億円・自己資本比率59%(2023年12月末時点)
- **安定した流通網・取引基盤**
⇒「いつでも、どこでも、誰でも」食べられる社会の実現を目指す
- **「六甲バターフィロソフィ」の実践**
⇒高い従業員定着率

「開発先導型活力企業」

六甲バターでは「社員一人ひとりが変革にチャレンジし、新しい考え方や新しいやり方を取り入れていくことで、活力に満ちあふれた会社」を目指す姿を考えています。

「六甲バターフィロソフィ」

六甲バターでは、経営の判断基準や行動指針を「六甲バターフィロソフィ」として体系化していますが、その中で「全従業員の物心両面での幸福追求」を大切な価値として掲げています。

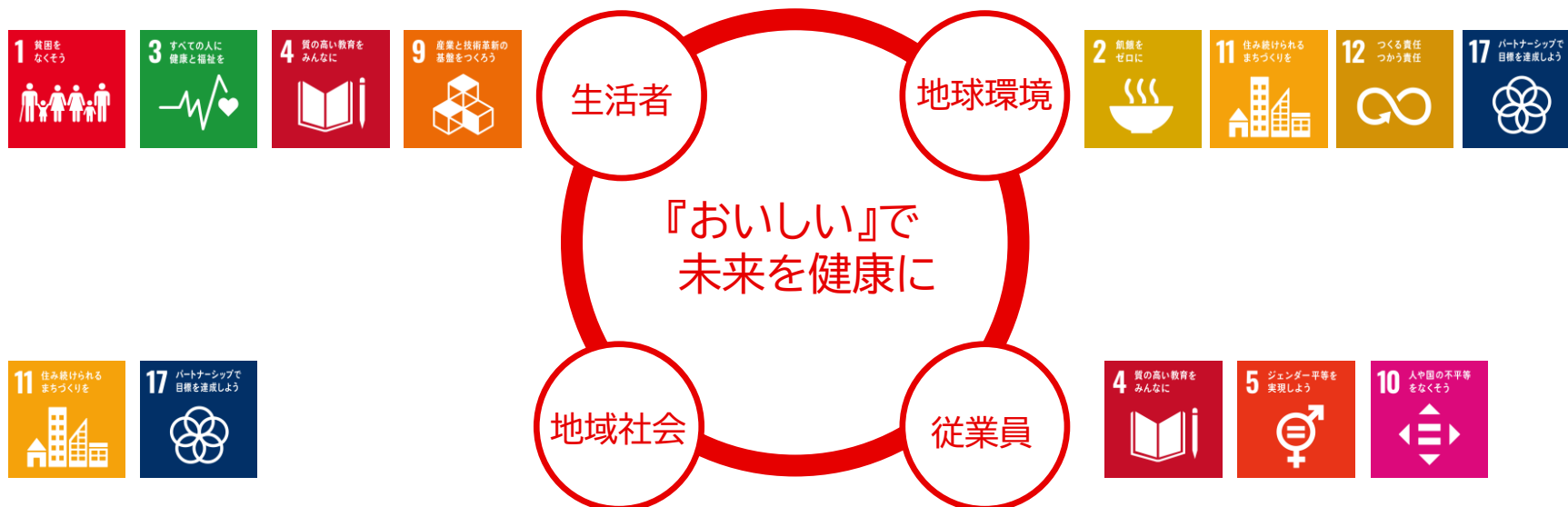
アクションプランの実行を通じ、「『おいしい』で未来を健康に」の実現を目指す

アクション 「いつでもどこでも誰でも食べられる社会の実現」

- 世界の子どもたちに栄養を提供
- みんなが食べられる「おいしい」の開発
- 海外へのプロセスチーズ文化の普及
- 新たな「おいしい」の開発

アクション 「豊かな自然環境を次世代へ」

- クリーンな工場から「おいしさ」を提供
- 工場からの廃棄物をなくす
- サプライチェーンで協力して、「おいしさ」を無駄にしない
- 環境にやさしい包材で無駄のない包装に



アクション 「住み続けたい地球に向けて」

- 給食を通じて、地域社会に貢献
- イベント・支援事業などを通じて、地域社会に「おいしい」を伝道
- 非常時、地域との深い連携

アクション 「ここで働く人みんなを幸せに」

- 先端技術を活用し、必要な人材を必要な場所へ
- 社内教育・制度の充実
- 時代に合わせ、多様な働きかたへの対応を

1. 会社概要

2. 2023年12月期の振り返り

3. 2024年12月期の計画

4. Appendix

前期比・修正計画比とも増収増益**売上高：442億円**(前期比+23億円・修正計画比+12億円)**営業利益： 6億円**(前期比+2億円・修正計画比+1億円)**売上高**

■2023年4月より実施した3回目の価格改定交渉が想定以上に順調に進捗、修正計画を上回る平均単価UPが実現(前期比+10%→+13%＊)

■販売数量も修正計画時の想定ほど減少せず(前期比△4%→△3%＊)

＊平均単価・販売数量ともチョコレート部門(前期売上高実績22億円・当期売上高実績10億円)を除いた増減率

営業利益

■価格改定による平均単価UP効果で収益率が改善

■輸入原料価格は2023年上期積み原料より低下傾向、また大幅円安状況も一服

(百万円)

	2022年12月期 通期実績	2023年12月期 通期計画(修正)	2023年12月期 通期実績	対前年増減額	対前年増減率	対計画増減額	対計画増減率
売上高	41,924	43,000	44,296	+2,372	+6%	+1,296	+3%
営業利益	345	500	626	+281	+81%	+126	+37%
経常利益	359	600	652	+293	+82%	+52	+14%
当期純利益	219	370	446	+227	+104%	+76	+35%
売上高 営業利益率	0.8%	1.2%	1.4%				
一株当たり 配当金	20円	20円	25円				

■営業外損益+25百万円

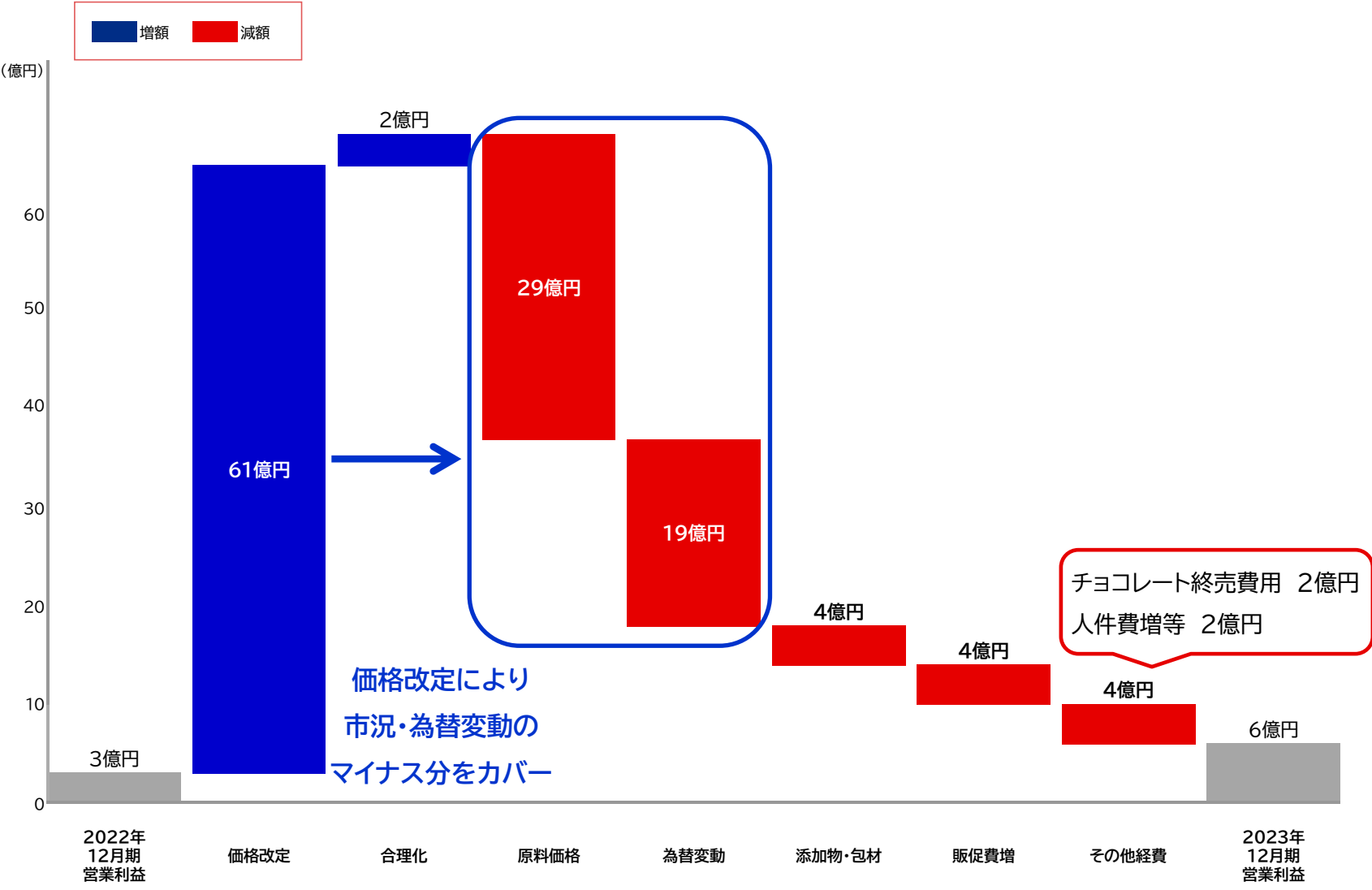
(主な内訳:受取利息等64百万円、為替差益61百万円、受取配当金56百万円、
関連会社支援費用△85百万円、遊休資産費用△47百万円、支払利息手数料△42百万円)

■普通配当(20円)に加え100期決算記念配当(5円)を実施

(百万円)

	2022年12月期 通期実績	2023年12月期 通期計画(修正)	2023年12月期 通期実績	対前年増減額	対前年増減率	対計画増減額	対計画増減率
チーズ	38,950	41,190	42,358	+3,408	+9%	+1,168	+3%
ナッツ	638	580	612	△ 26	△4%	+32	+6%
チョコレート	2,213	1,080	1,080	△ 1,133	△51%	+0	+0%
デザート・その他	123	150	244	+121	+98%	+94	+63%
合 計	41,924	43,000	44,296	+2,372	+6%	+1,296	+3%

- チーズ部門は家庭用商品・業務用商品とも増収
特に業務用商品については価格改定に加えコロナ禍後の需要回復や「Q食シリーズ」等の販路拡大もあり、前期比+22%と大きく成長
- チョコレート部門は2023年5月末をもってリンツチョコレートの販売を終了
- デザート・その他部門の伸びは主に新商品(オーツミルク・チーズアイス)が貢献



資 産	2022年12月期	2023年12月 期	増減
流動資産	24,109	24,738	+629
固定資産	27,312	26,246	△1,066
有形固定資産	22,710	21,012	△1,697
無形固定資産	137	141	+4
投資その他資産	4,464	5,092	+628
資産合計	51,421	50,985	△436

負 債	2022年12月期	2023年12月 期	増減
流動負債	14,425	16,045	+1,620
固定負債	7,762	4,843	△2,919
負債合計	22,188	20,888	△1,299
純資産			
純資産合計	29,233	30,096	+863
自己資本比率	56.8%	59.0%	+2.2%

【主な増減項目】

現金・預金+1,037百万円
 減価償却費△2,244百万円
 投資有価証券+582百万円
 →期末評価増によるもの
 長期性預金+300百万円
 →現金・預金より振替

【主な増減項目】

短期借入金+2,000百万円
 →シンジケートローンによる運転資金調達
 長期借入金△3,000百万円
 →既存タームローンの返済

(百万円)

	2022年12月期	2023年12月期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,093	3,238	+2,145
投資活動によるキャッシュフロー	△ 1,250	△ 995	+255
財務活動によるキャッシュフロー	△ 2,403	△ 1,403	+1,000
現金及び現金同等物の換算差額	112	△0	△ 112
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,448	839	+3,287
現金及び現金同等物の期末残高	4,822	5,662	+840

■投資活動によるキャッシュフローの主な内訳
生産設備等支払457百万円、固定性預金増加463百万円

■財務活動によるキャッシュフローの主な内訳
借入金返済1,000百万円、配当金支払389百万円

原価高騰への対策強化

- 追加価格改定の円滑な実施
- 生産性向上・販売量の維持回復に注力
- 諸経費の見直し・削減徹底

⇒◎価格改定進展、各種合理化・経費圧縮効果により
収益力も相応回復

商品開発/販路開拓

- 「開発先導型活力企業」の真価を発揮、
時代の要請(サステナビリティ)も踏まえた
商品開発展開を推進
- 将来有望な販路開拓

⇒◎ベビーチーズ・チーズデザートの新商品リリース
◎チーズアイス・オーツミルク本格販売開始
◎植物性製品の開発加速

中長期的課題の解決に向けて

- 中長期事業計画策定に着手
- コーポレートガバナンス高度化への取組み推進
- 「六甲バターサステナビリティ宣言」の更なる深化

⇒◎監査等委員会設置会社への移行、指名・報酬委員会の
設置、取締役スキルマトリクスの開示、招集通知英文化、
議決権行使プラットフォーム電子化を実施
◎「2030年環境目標」の開示、サステナビリティ委員会
の設置・開催



【2023年秋冬新商品】

(左)厳選おつまみベビーチーズ「だし香る柚子七味風味」

(右)チーズデザート6P「ピスタチオショコラ」

取組項目	実施時期
監査等委員会設置会社への移行	2023年3月29日開催の第99回定時株主総会にて決議
取締役スキルマトリクスの作成・開示	2023年3月29日開催の第99回定時株主総会招集通知より反映
開示書類の英文化(招集通知)	2023年3月29日開催の第99回定時株主総会招集通知より反映
機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームの導入	2023年3月29日開催の第99回定時株主総会決議分より導入
指名・報酬諮問委員会の設置・開催	2023年2月設置 2023年度は2月・12月の2回開催
サステナビリティ委員会の設置・開催	2023年11月設置 2023年12月第1回開催

* 青字部分は2023年3月10日決算説明会資料からの更新内容

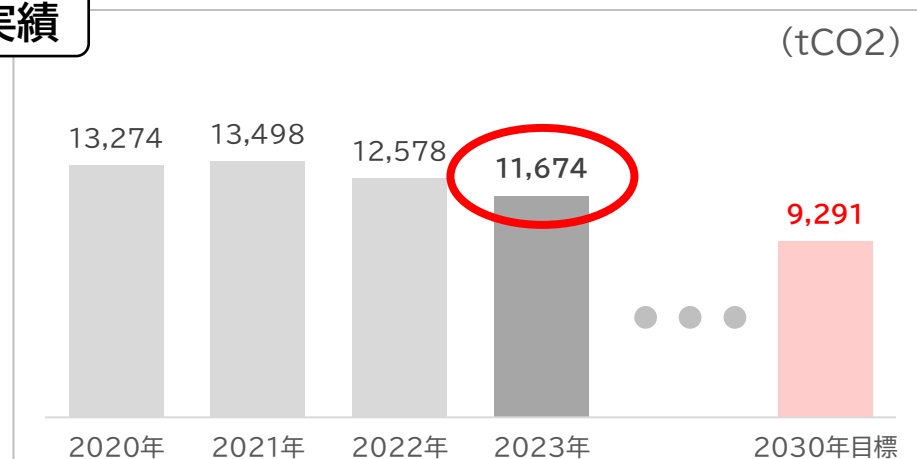
GHG排出量 (SCOPE1・2)

目標

30% 削減
(2020年度比)



実績



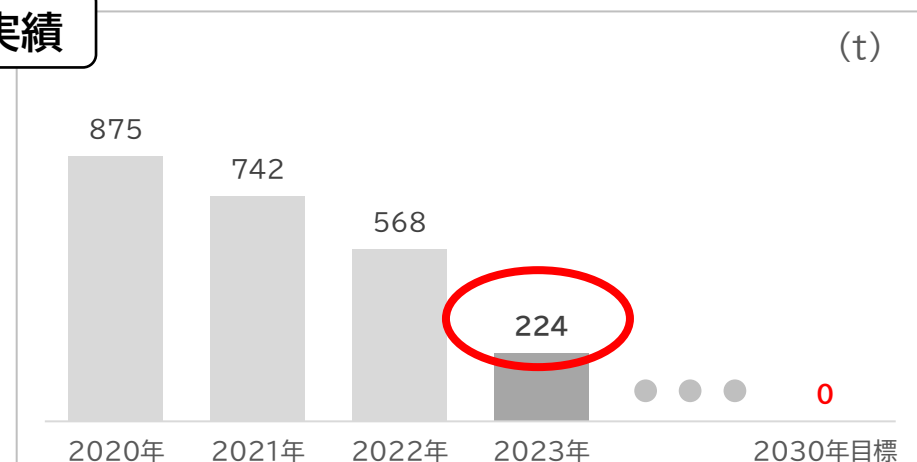
食品廃棄物量

目標

0
(リサイクル率100%)



実績



在籍人数

(人)

	2020	2021	2022	2023
全従業員数	784	759	768	759
男性	490	485	490	481
女性	294	274	278	278
うち外国籍の方	11	12	12	9

*全従業員数に派遣社員は含まれていません

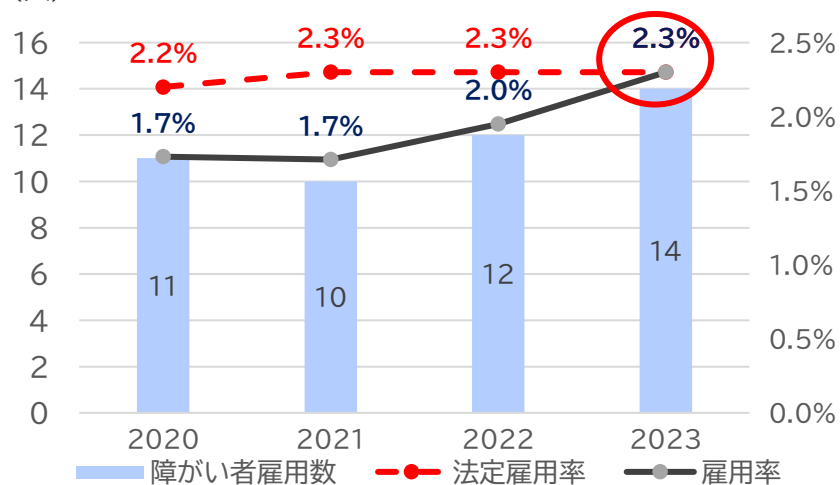
女性管理職・リーダー数の割合

(人)

	2020	2021	2022	2023
女性管理職	3	3	3	3
管理職数に占める割合	4.3%	4.5%	4.4%	4.9%
女性リーダー	4	4	5	8
リーダー数に占める割合	3.3%	3.3%	4.0%	6.6%

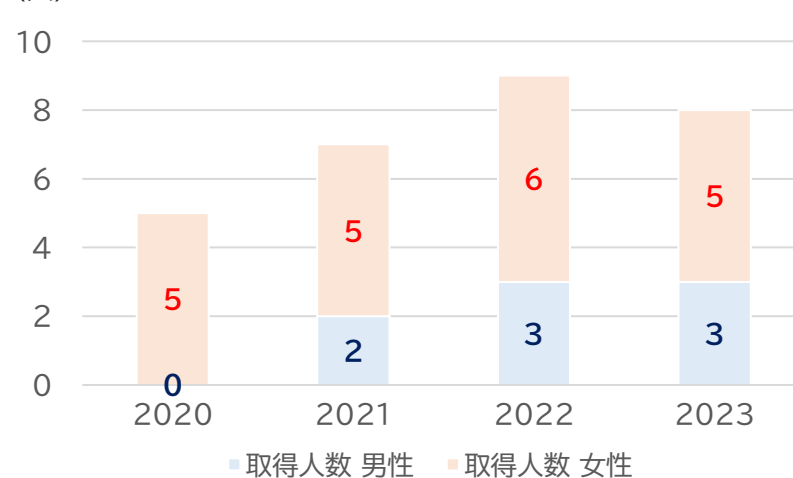
障がい者雇用数と雇用率

(人)



育休取得人数

(人)



「KOBEディライト・ファウンテン」に参加しました

「神戸ルミナリエ」の開催時期に合わせて4年ぶりに開催



限定のチーズメニュー、ホットワインを提供

「KOBEディライト・ファウンテン」

2015年から神戸・兵庫の食品企業が
ルミナリエ協賛事業として開催

今年は9社が参加し神戸の食の魅力を
伝えた



2024年1月19日～28日の期間中、沢山の方にお越し頂きました

1. 会社概要
2. 2023年12月期の振り返り
3. 2024年12月期の計画
4. Appendix

(百万円)

	2023年12月期 実績	2024年12月期 計画	対前年増減額	対前年増減率
売上高	44,296	45,300	+1,004	+2%
営業利益	626	1,800	+1,174	+188%
経常利益	652	1,900	+1,248	+191%
当期純利益	446	1,050	+604	+135%
売上高 営業利益率	1.4%	4.0%		
一株当たり 配当金	25円 *	20円		

*100期記念特別配当(5円)実施

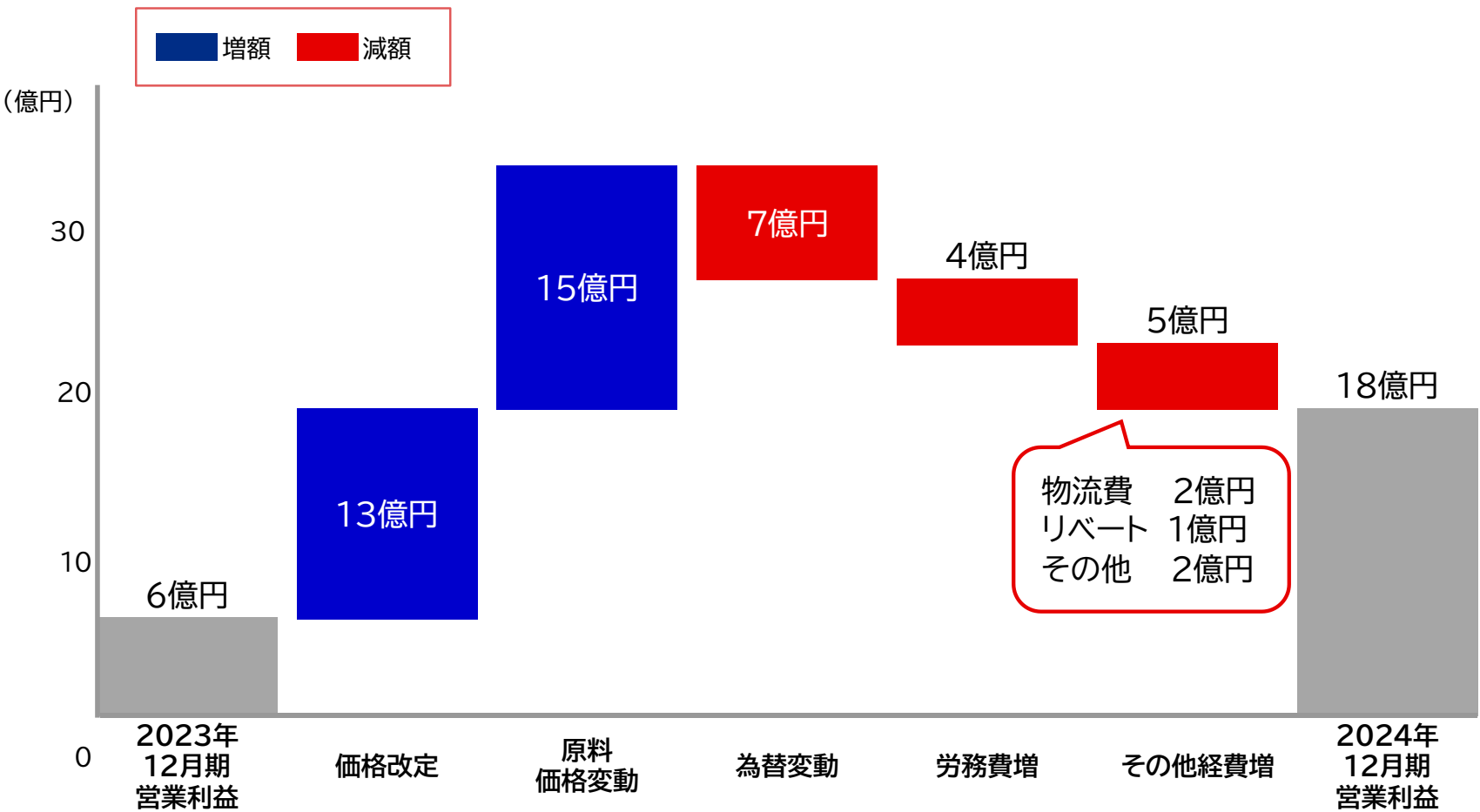
- 価格改定の定着と新商品投入・販促キャンペーンの強化等による販売数量増を通じ、前期比+2%の増収を計画
- 足許の輸入原料価格も落ち着いており当面これが継続するとみて収益環境改善を織り込み
- 為替相場動向については引き続き注視

(百万円)

	2023年12月期 実績	2024年12月期 計画	対前年増減額	対前年増減率
チーズ	42,358	44,250	+1,892	+4%
ナッツ	612	630	+18	+3%
チョコレート	1,080	0	△ 1,080	△100%
デザート・その他	244	420	+176	+72%
合 計	44,294	45,300	+1,006	+2%

- リンツチョコレート販売終了に伴う売上マイナスをチーズ部門の増収でカバー
- チーズ部門は家庭用・業務用ともに増収を計画するが、特に伸びしろの大きな業務用の販売拡大に期待
- オーツミルク・チーズアイスの新商品についても本格展開・販路拡大による増収を計画

■ 価格改定と原料価格の低下が円安・各種経費増を吸収し、前期比+12億円の増益を計画



【株主配当】

■2023年12月期は1株当たり20円の普通配当に加え1株当たり5円の100期決算記念配当を実施

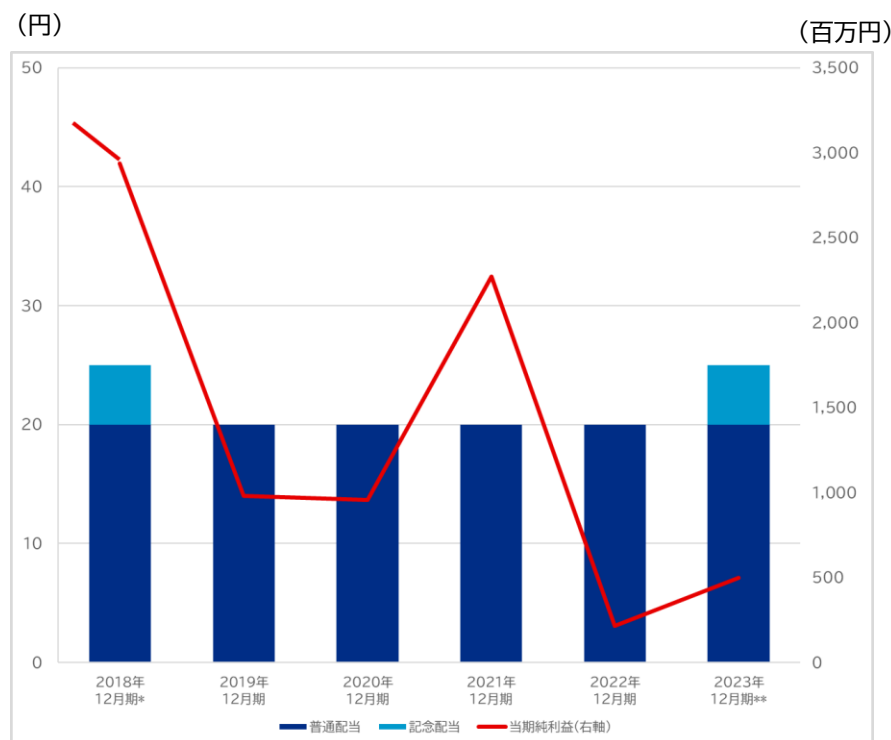
【自己株式取得】

■自己株式取得については足許の株価動向等を総合的に勘案し実施せず



2024年度は業績動向等も踏まえながら株主還元の基本方針について改めて検討

当期純利益推移と配当実施状況



* 70周年記念として1株当たり5円の記念配当を実施

**100期決算記念として1株当たり5円の記念配当を実施

「事業成長」×「基盤強化」= 更なる企業価値向上へ

事業成長に向けて

■既存事業の高付加価値化追求

→労働生産性水準の向上

■海外事業セクターの強化

→ECI社(インドネシア合併)等を足がかりに

■新規事業の成長促進

→オーツミルク・チーズアイスの成長加速

→植物性製品の本格展開に向けた準備

■新製品開発機能強化

→各事業部門成長の原動力に

■ブランド価値向上への取り組み強化

→商品認知率等をKPIに設定

基盤強化に向けて

■中長期的な成長・投資戦略の策定

→2024年度中に中期計画を明示

■高付加価値人材の育成と環境整備

→人事制度見直し・教育研修制度の充実

■食品安全文化構築に向けた取り組み

→FSSC22000 Ver.6対応

■サステナビリティ推進強化

→GHG排出量・食品廃棄物量の削減目標達成

■各部門業務の一層の効率化

→社内基幹システム更新・

物流2024年問題対応など



日本の名産ベビーチーズ
神戸牛入り



日本の名産ベビーチーズ
北海道産ホタテ入り
バター醤油仕立て



チーズinスライスCHEASY7枚入



チーズinとろけるスライスCHEASY7枚入



チーズデザート6P
静岡県産クラウンメロン

こだわり抜いて作られた、
濃厚でほんのり甘く、香ばしいオーツミルク

OATSIDE

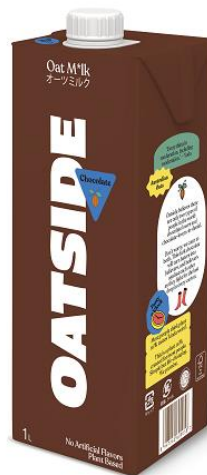
オーツサイドとは

オーツサイドは厳選されたオーストラリア産のオーツ麦を使用し、濃厚で香ばしい味わいに定評があるオーツミルクブランド。焙煎加工したオーツ麦を使用し、独自の酵素加工を施すことで、オーツ麦由来の甘みと香ばしさを最大限に引き出しています。乳糖不耐症の方にも安心して飲んでいただける植物性ミルク*です。



オーツミルク バリスタブレンド

ほんのり甘く、まろやかで濃厚な口当たり。
そのまま飲んでも、コーヒーや抹茶、ほうじ茶
などとの相性も抜群。
泡立ちもよく、ラテアートも描けるオーツミルク。



オーツミルク チョコレート

インドネシア産のカカオブレンドを使用。
カカオたっぷり、甘さ控えめ。
お子様も喜ぶチョコレート味のオーツミルク。

*牛乳や乳飲料ではありません。



・『CHEESE PATISSIER』は、
ちょっとクセがあるからすごくクセになる
“おとな向けアイスクリーム”のブランドです。

・昨年3月の「いかりスーパー」を皮切りに、
高級スーパーを中心に、徐々に販売店舗数を
拡大中。小さく始めて着実に大きく育てる
ブランド戦略で高付加価値化を目指します。



・現在、関東圏を中心に約300店舗で販売。

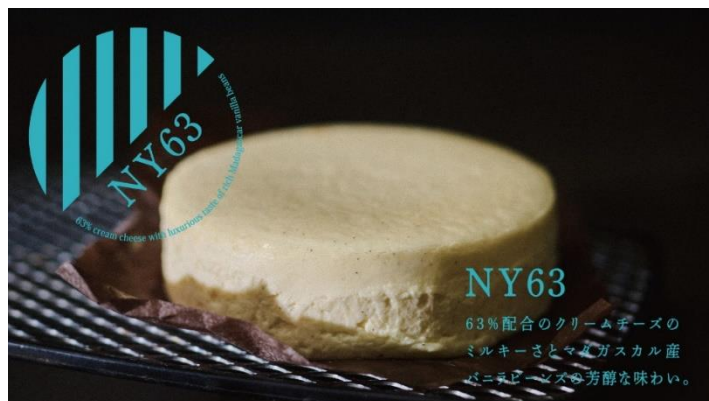
・売り場でのブランドの存在感を強化すべく、
今期中にアイテム数を増やす計画です。

チーズ好きの
ための植物性

Q・B・B
PLANT
MADE



- ・『QBB PLANT MADE』は、チーズ好きのお客様にこそ選んでいただきたい、味自慢の植物性代替チーズのブランドです。
- ・昨年6月に業務用シュレツドを先行発売し、大手外食チェーン様でご採用いただく等、好調な滑り出しを見せました。
- ・2024年3月に家庭用も発売を開始しました。第一弾は業務用と同じくシュレツドタイプ。『Pシュレツド』と名付け、カテゴリーの代名詞的な存在となることを目指します。
- ・様々なタイプのシリーズ商品を市場に出すべく準備を進めています。



QBBチーズデザート6P15周年記念商品

チーズのプロフェッショナルQBBが届けたい
究極のバイクドチーズケーキ！

応援購入サイトMakuakeにて数量限定で発売

発売開始3日で500セットが完売しました。

チーズデザート6PのシェアNo.1のQBBがこれまで培ってきた
技術と知識、開発担当者のチーズケーキへの熱い思いが合わさり、
誕生しました。

(*インテージ SCI(15～79歳) チーズデザート6Pタイプ市場 2022年1月～12月 購買金額シェア)



「6月第一日曜日はベビーチーズの日」 6/2イベント実施予定

23年同様、24年も六甲山牧場で開催検討中



昨年実施内容

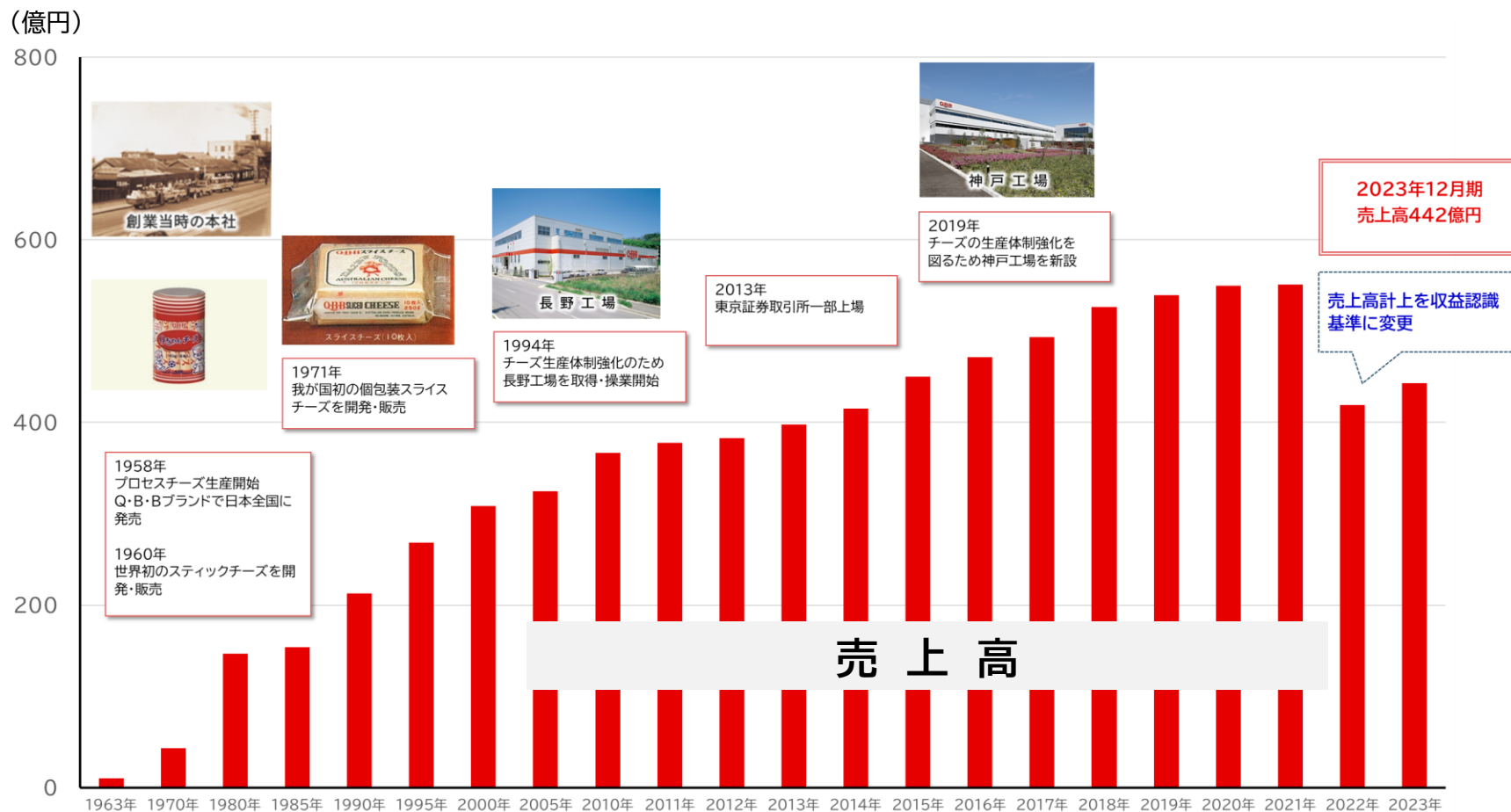
- ラジオ関西中継
- ワタナベフラワー LIVE
- グッズ販売 ●サンプリング
- 石窯ピザ作り体験(ベビーチーズ使用)



*画像2023年のものです。

1. 会社概要
2. 2023年12月期の振り返り
3. 2024年12月期の計画
4. Appendix

「世界一のプロセスチーズメーカー」を目指して



(百万円)

	2013年12月期	2014年12月期	2015年12月期	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期
売上高(※)	39,790	41,522	45,001	47,115	49,374	52,672	53,947	54,948	55,073	41,924	44,296
売上原価	22,628	24,732	26,022	24,863	26,359	29,155	31,887	32,487	32,180	35,452	37,589
粗利益	17,162	16,789	18,979	22,251	23,014	23,517	22,059	22,460	22,892	6,471	6,706
売上高粗利益率	43.1%	40.4%	42.2%	47.2%	46.6%	44.6%	40.9%	40.9%	41.6%	15.4%	15.1%
販売管理費	14,863	14,869	15,984	17,054	18,143	19,159	19,825	20,520	20,526	6,126	6,079
営業利益	2,299	1,920	2,994	5,197	4,871	4,358	2,234	1,940	2,366	345	626
売上高営業利益率	5.8%	4.6%	6.7%	11.0%	9.9%	8.3%	4.1%	3.5%	4.3%	0.8%	1.4%
営業外収益	129	135	75	72	82	95	96	71	217	224	212
営業外費用	30	28	32	63	67	129	149	344	352	210	186
経常利益	2,398	2,027	3,038	5,205	4,886	4,324	2,181	1,667	2,232	359	652
売上高経常利益率	6.0%	4.9%	6.8%	11.0%	9.9%	8.2%	4.0%	3.0%	4.1%	0.9%	1.5%
当期純利益	1,459	1,019	1,945	3,431	3,330	2,935	980	956	2,271	219	446
売上高当期純利益率	3.7%	2.5%	4.3%	7.3%	6.7%	5.6%	1.8%	1.7%	4.1%	0.5%	1.0%

* 2022年12月期より収益認識基準適用

1948年12月	平和油脂工業株式会社として創立(12月13日/資本金200万円) 当初は農林省指定のマーガリン製造工場で製品は全て農林省に納入
1954年7月	六甲バター株式会社と社名を変更
1958年11月	オーストラリアから輸入した原料チーズでプロセスチーズを生産 Q・B・Bブランドで日本全国に発売
1959年11月	三菱商事株式会社と取引が成立、当社チーズの販売網拡大
1960年10月	世界で最初 of スティックチーズを開発、発売
1963年5月	大阪証券取引所第2部に上場(資本金1億円)
1965年2月	東京都中央区日本橋に社屋を新築し、東京支店を開設(現 東京支社)
1968年9月	稲美工場増築工事完成 月産1,000トンの設備をもって稼働
1971年12月	我が国で最初に個包装 of スライスチーズを開発、発売
1972年3月	Q・B・Bナッツでナッツ市場に参入
1982年6月	Q・B・Bレアチーズケーキを開発、発売
1985年3月	マドリードで行われた第24回モンドセレクションでレアチーズケーキ・スライスチーズ・ポコットチーズが金賞を受賞
1988年3月	バークドチーズケーキを開発、発売
1989年12月	スイスのリンツ&シュプルングリー社と日本における同社製チョコレート製品の輸入販売契約を締結
1994年12月	チーズ生産体制の強化をはかるため長野工場を取得、操業開始
2000年11月	ISO9001を認証取得
2001年8月	ISO14001を認証取得
2012年12月	大阪証券取引所 第1部上場
2013年7月	東京証券取引所 第1部上場
2019年2月	チーズ of 生産体制の強化をはかるため神戸工場を新設
2019年5月	長野工場において、FSSC22000を認証取得
2020年9月	神戸工場において、FSSC22000を認証取得

USD/円為替相場推移

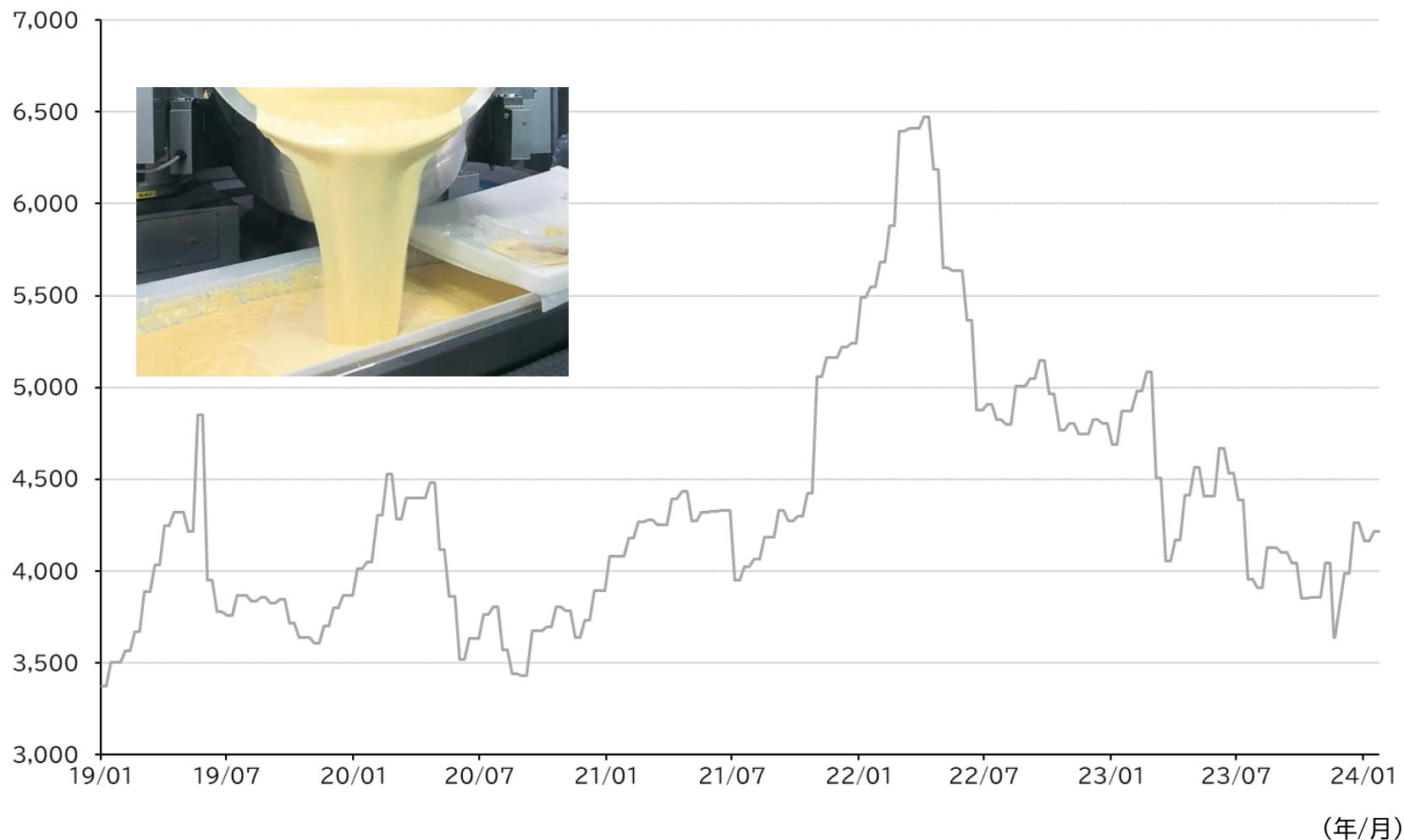
(USD/円)



出所:QUICKのデータをもとに当社作成

チーズ原料価格推移(GLOBAL DAIRY TRADE チェダーチーズ価格)

(USD/トン)



出所: Bloombergのデータをもとに当社作成



神戸工場の見学施設

Q・B・B

プロセスチーズパーク

見学申込み最小人数が2名～となり
さらに利用しやすくなりました！

見学施設について



Q・B・Bプロセスチーズパークとは
東京ドームと同じ広さで、年間25,000
トンの生産を行う当社神戸工場内に併設
された施設です。
チーズの歴史や栄養について学ぶことが
できるほか、実際にチーズが作られる様子
をのぞくこともできます。





- ◆ 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いします。
- ◆ 本資料に記載された業績計画などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ◆ 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。